

地域のほこり！ 見守り応援隊とともに歩む推進員活動 ～認知症でも自分らしく暮らせる町へ～



山形県 金山町
金山町地域包括支援センター
認知症地域支援推進員 松田 千穂

山形県金山町の概要①

人口 : 5,615 人

65歳以上人口 : 1,944 人

高齢化率 : 34.6 %

(平成30年4月1日時点)

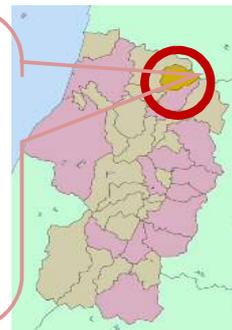
日常生活圏域数 : 1か所

地域包括支援センター : 直営1か所(健康福祉課)

面積 161.67
平方キロメートル

産業 農業・林業

名産 米(つや姫等)、
山菜、キノコ、
米の娘ぶた、ニラ



50km

※H18～24年度 町社会福祉協議会と同事務所に設置

H25年度～役場内へ

認知症地域支援推進員 : 3名

(包括支援センター介護支援専門員、保健師が兼務)



山形県金山町の概要②

交通機関： 国道13号線、路線バス、
町営バス、タクシー

町の中心部から端までは車で15分程度
地区同士が行き来できるよう

環状に道路が整備

冬期間の積雪： 年間 120～220 cm

寒冷、除雪・屋根の雪下ろしへの不安



地域性・住民性

認知症の知識不足
認知症であることを隠す
助けを求めにくい地域性

地縁・血縁の支え合いあり
(インフォーマルな支援
の風土)

・認知症高齢者の割合
が県平均より高い！
・一人暮らし認知症の
支援が大変！

山形県市町村認知症施策
総合推進事業を実施

目指した地域の姿

- ・ 高齢になっても住み慣れた地域で
安心して暮らし続けられるような地域
＜地域の一員としてともに生活できる＞

H23年度の具体的な目標

- ・ 地域包括支援センター職員の意識を統一する
- ・ 認知症の方を介護する家族や介護支援専門員の方に
聞いてみる
- ・ 地域での認知症の方とその家族を支援するしくみを作っていく

金山町の認知症施策①

	事業名	内容	ポイント	年度
1	認知症地域支援推進員育成	H23年度に介護予防推進員(介護福祉士)が研修を受講。行政担当と一緒に活動を推進。 H26・H27にも研修受講。(計3名)	・要介護認定申請時の認知度ランク2A以上が県平均より多い(61.9%)。 ・一人暮らしされている認知症の方の支援の大変さ。	H23 ～
2	認知症の方を介護する家族の会	介護の悩みや工夫、介護者の経験や情報を共有し、在宅介護の推進につなげる。	介護者の集い→家族会へ 介護者の声から支援の「手引き」を作成。 家族である子ども達の教育の必要性。	H23 ～
3	認知症サポーター養成講座	小学校、消防団、商工会等町内の団体を対象に実施。認知症の正しい知識や対応の仕方を地域全体に普及。	特老スタッフ、診療所看護師、薬局スタッフ等もキャラバンメイトとして活躍。	H23 ～
4	関係職種との連携推進	介護支援専門員情報交換会等において認知症支援について講話、情報交換。	H27～多職種連携会議、H29～認知症初期集中支援事業へ。	H23 ～
5	高齢者総合支援推進委員会	認知症・高齢者支援のための関係機関によるネットワークづくり。認知症高齢者や家族への支援体制の構築を検討。	H24認知症等地域支援推進協議会 →H27～地域ケア推進会議や介護保険事業計画策定委員会等も兼ね「高齢者総合支援推進委員会」へ。	H24 ～

金山町の認知症施策②

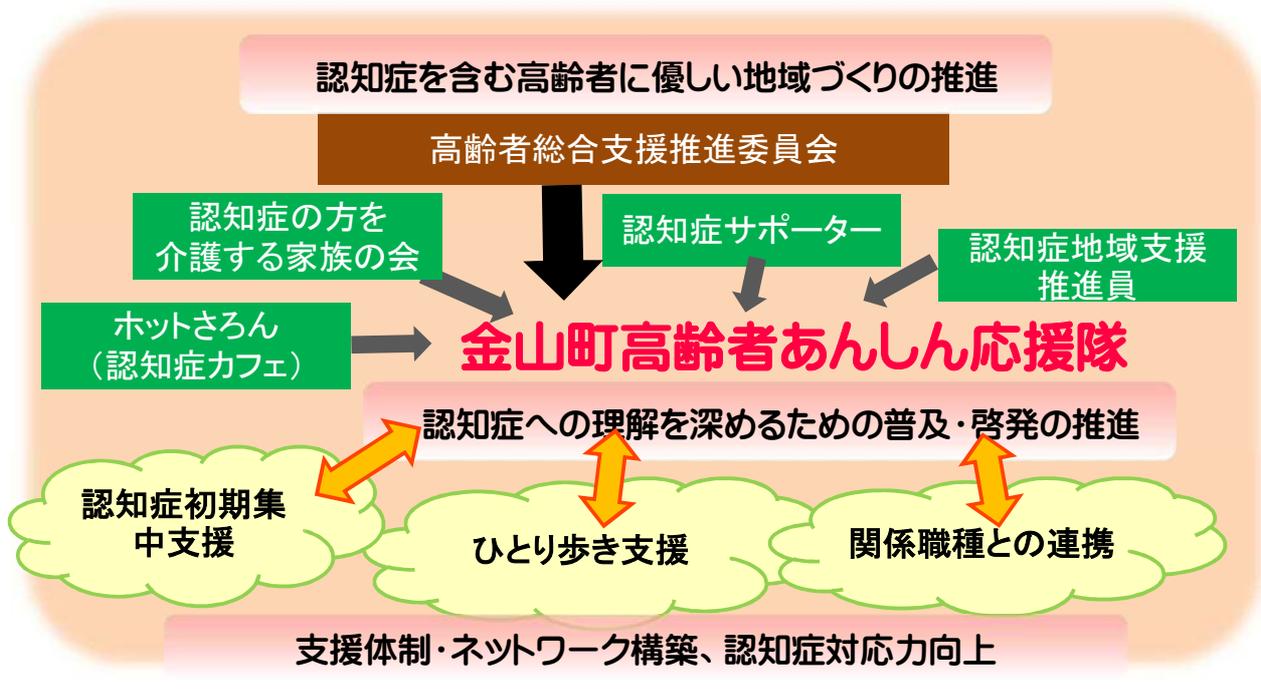
	事業名	内容	ポイント	年度
6	物忘れ相談	タッチパネル式パソコンで、認知症のスクリーニングを行う。健診会場や介護予防事業で実施。	結果の伝え方や、要経過観察の方への支援を工夫。主治医や医師会との連携。	H24 ～
7	ホットサロン (認知症カフェ)	認知症等高齢者、介護者等が気軽に集まり、相談や情報交換を行う場。	講師として、専門職(看護師、理学療法士、管理栄養士等も参加)	H25 ～
8	高齢者等 あんしん応援隊	高齢者総合支援推進会議の構成員・事業所、認知症サポーター等による、地域で見守り支える体制づくり。	住民や関係機関によるあんしん応援隊。ステッカーやマグネットを配布し目印に。	H26 ～
9	認知症ケアパス 作成	認知症の症状や経過、相談先やサービス等資源の情報。	町内の医療・介護・福祉関係者と共同で作成。	H27
10	ひとり歩き等高齢者支援事業	徘徊高齢者等の情報を町・警察に登録し、行方不明時の迅速な捜索に生かす。	家族の希望と同意があれば、必要な関係機関に情報提供できるように。	H27 ～
11	認知症初期集中 支援事業	認知症サポート医・介護福祉士・保健師がチームとなって認知症支援。	認知症地域支援推進員がチーム員となり直接的支援、地域支援体制づくりに向けた支援を行う。	H29 ～



今回ご紹介する取り組み

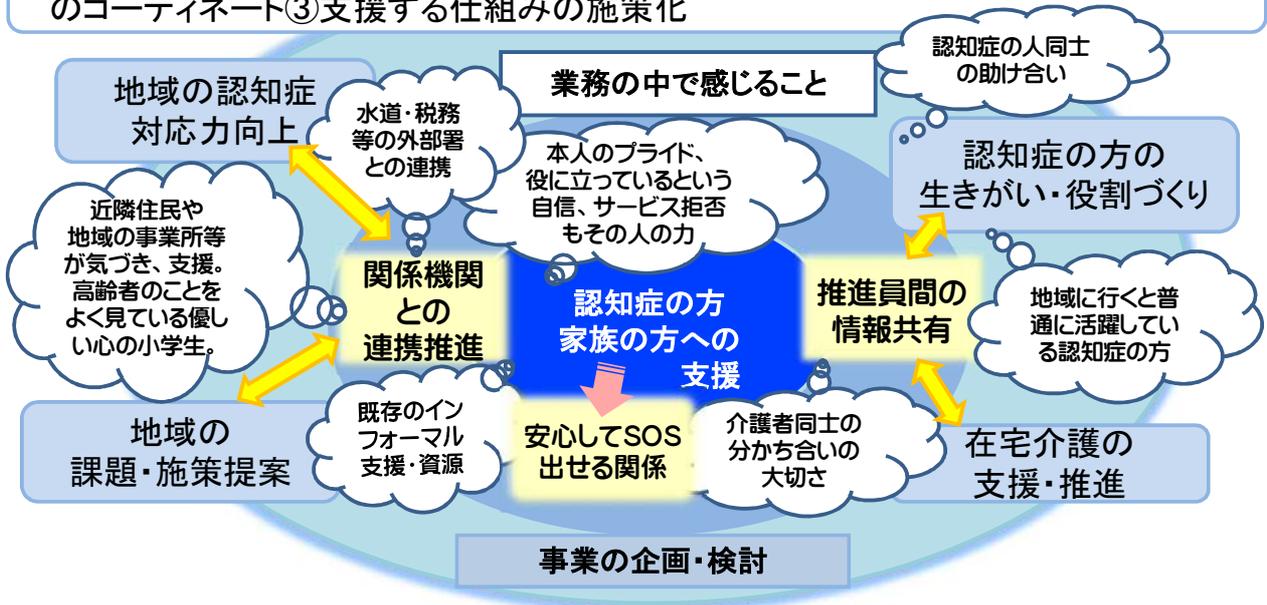
- ・認知症サポーターや区長、各団体代表等の住民の方、議員、民生委員、消防署、警察、郵便局、商工会、医療介護関係機関、NPO法人等へ協力依頼。
- ・高齢者の方への、あいさつ、声がけ、変化への気づき、ちょっとした相談や手助け。
- ・応援隊は、組織化していない。気持ちのある方が、自分でできる支援を行う。

～いつでも誰でもできる支援～



推進員の役割 ～町から求められている姿～

- ①高齢者本人・家族のための事業②本人・家族の相談支援、支援体制を整えるためのコーディネート③支援する仕組みの施策化



高齢者あんしん応援隊①

<背景・きっかけ>

- ・H26年3月の認知症等地域支援推進協議会で構成員が「何か私たちにできることをやりたい！」
「見守り110番をつくりたい！」
介護者代表、民生委員、議員、農協等の声
- ・「認知症サポーターの存在を知ってほしい」住民の声
- ・県内で徘徊高齢者等事前登録の取り組みを実施。
県警「やまがた110ネットワーク」で情報提供。

関係者同士
情報交換を行い、
見守り体制について
考えてきたが・・・実
践にうつそう

うちのおじいさん
が、となり町で迷
い、助けられたこ
とがあった。

銀行・農協・
コンビニ等で、
認知症の方の
対応をする場
面が多い。

高齢者あんしん応援隊②

<経過>

H26年7月・・・認知症等地域支援推進協議会の中で

認知症地域支援推進員が提案

H26年12月・・・素案をつくり、町内のイラストレーター

にチラシ・ステッカーのデザインを依頼

H27年2月・・・**「認知症研修会」の開催**

県家族の会代表の講話、町民の介護体験発表、
認知症支援のためのワークショップ

→応援隊事業の紹介、見守り支援の呼びかけ

金山町らしい
取り組みにしたい！

目印のステッ
カーに、金山杉
の年輪を。

金山らしさ
営業車・バスに
貼ってはどうか？

認知症介護の心構え、
地域支援の必要性、
予防について・・・
意見がたくさん！

あんしん応援隊の目印



年輪を重ねた
高齢者の方

ご家庭の玄関や
自家用車に
貼ったり・・・

それを囲んで
支える若い杉

町営バス、農協や
郵便局、介護サー
ビス事業所の車等
に貼って・・・

高齢者の方、認知症の方、そして推進員の味方です！

高齢者あんしん応援隊④

<工夫したこと>

- ①熱意ある住民(介護経験者・議員・民生委員等)と一緒に
応援隊の立ち上げをすすめた。
→ 住民が協力してくれ、広く周知。

住民や関係機関の
関心が高まった。

- ②講演会・介護体験発表
・ワークショップで
応援隊の紹介、周知。

動機づけ、
意欲向上
につながった。

→地域の見守りの大切さ。
自分たちも協力することが大切。



高齢者あんしん応援隊⑤

<得られた効果>

- ①地域の方に、見守りについて頼みやすくなった。

○何をすればいい・・・？

「無理しないで自分ができることを
すればいい。！」

○目印のステッカーで
「自分ひとりではない、
勇気を出して行動へ」

介護者など
住民同士
だと助言も
効果的。

ひとりででき
なくても隣近
所と一緒に。



<得られた効果>

②地域の見守り体制の把握。

地域住民との連携が図られるようになった。

○認知症の方が認知症の方を心配し、相談へ。

○家族・支援者の住民を交え、

地区公民館で地域ケア会議を開催。

・家族の了解を得て、
登録情報の共有範囲
を広げること。
(民生委員・事業所
等へ)

○関係機関からの情報や相談も、地域包括
支援センターに入るようになった。

→ひとり歩き高齢者支援事業の申請・登録へ。

支援する人・支援のネットワークが広がる

・家族、住民、それぞれの役割を確認。
・地域と包括の間で、連絡しやすい関係ができた。



<得られた効果>

③本人の「自分らしさ」や「できること」に目を向けた支援を
考えるようになった。

○認知症の独居高齢者。(脱水で妄想や不眠・・・)

応援隊でもある同級生のあたたかい見守りや声かけ

→半年後には農作業のお手伝い！

○認知機能の低下でご近所トラブル(農作物とられた！)

家族や民生委員の理解・やさしい声かけ

→誤解が解け、和解。生きがいである

シルバー人材の仕事も楽しく続けている。



推進員としての活動の課題

- 地域にはまだまだ、認知症に対する知識不足や、助けを求めにくいところがある。(地域差がある)
- 認知症カフェ等、事業への参加者が固定化
- 推進員活動で行き詰まった時・・・
他の推進員はどうしているの？
- 若年性認知症等、サービスの受け皿がない
- やりたいことはあるけれど推進員だけでは人手不足。



今後の活動・取組の方向性

- ①包括支援センター業務の中で、推進員の視点を活かす。
→地区の「居場所づくり」から、認知症支援への理解・意識づけ
- ②推進員同士の情報交換、情報共有で、認知症の方の社会参加を可能にしていく。～総合事業への参加、
認知症カフェの講師依頼等、活躍の場を作る～

※山形県では推進員の研修・情報交換会や出張認知症カフェを開催し推進員を支援。

町外の推進員との交流も大事に。

きょうだい・親戚等のインフォーマル支援を活かす

- ③あんしん応援隊～住民の方々・関係機関を仲間にして、認知症支援の「まちづくり」をすすめていく。



心優しい小学生、おせっかいおばさん、息子のようなバス運転手・・・とともに。

子どもたちの声

「あなたが高齢者になったら周囲から
どのように接してほしいですか？」



- ★ みんなと一緒に笑っていたい。
- ★ 普通の人と変わらずに、優しくしてほしい。
- ★ 無視しないで声をかけてほしい。
- ★ いつものように接してほしい。いつもどおりに生活したい。
- ★ なるべく周囲の迷惑にならないように生活したい。
- ★ 施設に入るより、ずっと家族と生活したい。
- ★ 悪気があって病気になったのではないから理解してほしい。
- ★ 長生きしたい。

子どもたちが考える 「自分たちにもできる」こととは？

- ★ 困っていたら「どうしましたか？」と声をかけていきたい
すすんで、手助けしたい。
- ★ 小さなことでも手助けしたい。何か役に立ちたい。
- ★ 優しく接したい。親切にしたい。
- ★ 元気なあいさつ。笑顔で声をかけたい。会話をしたい。
- ★ 認知症の人と同じ人間。困っていたら助けたい。
- ★ 自分がしてほしいことを同じようにしていきたい。
- ★ 「ありがとう」と言えるような関わりをしていきたい。
- ★ その人の気持ちを考えて対応したい。
自分や家族だったらと考えて。
- ★ 認知症の人にも、それ以外の人にも笑顔でいたい。
- ★ 少しずつ寄り添って支えていきたい。



こんな素敵な
あんしん応援隊を
ほこりに。

認知症になっても、高齢になっても 地域でふつうに活躍できる町へ！

推進員自身が、
高齢者に学び、
地域の中で楽しく
活動できると
いいですね！



ご静聴ありがとうございました 😊

